

志木市は小中一貫教育を推進します

～次代を担う子どもたちのために～

志木市教育委員会 学校教育課 ☎048(456)5367

志木市では、次代を担う子どもたちの健やかでたくましい成長につなげるため、小中一貫教育を推進していきます。



■ 小中一貫教育とは？

小学校・中学校の先生が、義務教育9年間の全体像を共有し、9年間、切れ目のない学習・生活指導を行う教育です。

【主なメリット】

- ・ 9年間連続した学習指導と学びによる学力の向上
- ・ 学習のつまずき、不登校の予防・早い段階での解消
- ・ 幅広い年齢層の交流による人間性・社会性の育成

■ 小中一貫教育の形態

大きく分類すると「義務教育学校」と「小中一貫型小学校・中学校」の2つの形態があります。

義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校

義務教育学校



9年
(前期課程6年+後期課程3年)

修業年限

小学校6年
中学校3年

校長

1人

小・中学校ごとに1人

教職員組織

小・中学校の区別なく
1つの組織

小・中学校ごとに
別組織

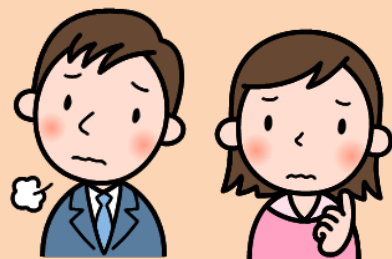
小中一貫型 小学校・中学校



現状の課題～なぜ小中一貫教育が必要なの？～

■ 学習のつまずき

- ・ 教育内容や学習活動が質的に高まり、量的にも増加している。
⇒ 20年前と比べると、小学校の授業の時間数が年間で約70時間も増えています。



■ 発達の早期化

- ・ 身体的な発達が早まっている。
- ・ 思春期が到来する時期が早まっている。
⇒ 近年の子どもの心身の発達は、6-3制が始まった昭和20年代前半と比べると2年くらい早くなっています。

■ いわゆる「中1ギャップ」

- ・ 中学校進学の際、新しい環境に対応できない、いわゆる「中1ギャップ」
- ・ 小学校と中学校の学習や生活の違いによる、「小中ギャップ」
⇒ 志木市でも中学校進学後に不登校になる生徒が多くなっています。
※小学校から中学校へ進学後に不登校者が2.6倍に増加(令和3年度)

➡ **小中一貫教育を推進することで、
これらの課題を解決し、教育の質をさらに向上**

小中一貫教育導入の成果(文部科学省調査)

■ 全国の小中一貫教育の導入状況(公立)

- ・ 小中一貫教育を実施している 249市区町村
- ・ 小中連携教育を実施している 1,254市区町村
- ・ いずれも実施していない 341市区町村



■ 小中一貫教育の効果(既に導入している学校のアンケート)

- ・ 小中学校の教職員間で協力して指導にあたる意識が高まった(97%)
- ・ 中学校への進学に不安を覚える児童が減少した(96%)
- ・ 上級生が下級生の手本となろうとする意識が高まった(94%)
- ・ 下級生に上級生に対する憧れの気持ちが高まった(93%)
- ・ いわゆる「中1ギャップ」が緩和された(93%)

導入している多くの学校現場では、手応えを感じています

出典:小中一貫教育の導入状況調査(平成29年3月1日時点)

小中一貫教育のメリット

■ 切れ目のない、連続した学習指導・生徒指導

連続した指導により、中学校に進学する際のハードルをゆるやかにすることができます。

- ・いわゆる「中1ギャップ」を予防できます。
- ・近年増えている、特に中学校の不登校も予防できます。
- ・小中学校の先生で情報を共有し、連携して対応することにより、早い段階で学習のつまづきを解消することができます。

■ 小中学校の先生の連携による、課題解決力の強化

小中学校の先生の連携が強化されるとともに、9年間を通じて、しっかりと子どもたちの成長を見守ることができます。

- ・課題が発生した際も、連携して迅速に対応できます。
- ・多くの児童生徒や保護者との関わりや、小中学校の先生同士の協働により教育意識が高まり、学校の教育力が向上します。

■ 幅広い年齢層の交流による、豊かな人間性・社会性の育成

日常生活や学校行事等を通じた、小中学校の垣根を超えた交流により、豊かな人間性・社会性が育まれます。

- ・小学生が中学生へのあこがれをもち、身近な目標となります。
- ・中学生の、小さい子への思いやりが育まれます。
- ・中学校区全体で創る学校行事等により、これまでになく経験と思い出を得ることができます。

■ 特別支援教育の充実

9年間を通じた切れ目のない指導・支援、スムーズな小中学校の接続など、精神的・肉体的な負担の軽減により、特別支援教育を充実することができます。



Q. 志木市にも、中1ギャップはあるの？

A. 志木市でも、中学校で不登校者が増加しています。

国立教育政策研究所が発行している「中1ギャップの真実」では、

- ・中学校区単位で連携を進めていかなければ、中学校の課題は解消できない
- ・小中連携はもとより、小小連携も含めて不登校やいじめという共通の課題に取り組むことで、効果をあげている中学校区も現れている。

と書かれており、小学校から中学校への接続時だけではなく、小中学校の9年間を通じて、対策に取り組む必要があります。

小中一貫教育・義務教育学校Q&A

小中一貫教育について

① 小学校で、中学生と同じ授業を行うの？

- ・これまで通り、小学生は小学校の、中学生は中学校の「学習指導要領」に沿った授業を行います。
- ・その上で、小学校の授業でも、中学校の先生が教科の専門性を活かした指導により、教育の質の向上を図ります。



② 小中一貫教育の導入によって通学区は変わるの？

- ・小学校、中学校ともに通学区は変わりません。

③ 中学校の通学区選択の自由化はなくなるの？

- ・これまで通り継続します。

義務教育学校について

① 大規模校になると、1クラスの人数が増え、窮屈になるのでは？

- ・学校の規模が大きくなってもクラスの定員は変わりません。
- ・必要に応じて空調の設置など、快適な教育環境を整備します。



② 大規模校になると、先生の数が減るのでは？

- ・クラスの定員は変わらないため、先生もこれまでと同じ基準で配置されます。
- ・義務教育学校では、先生を増員して、配置できる制度を活用することができます。
- ・高い評価を受けている、スマートクラスや英語専科教員、支援員や相談員等の志木市独自の手厚い教育支援を、今後も継続します。

③ 小学校の卒業式、中学校の入学式がなくなるの？

- ・成長過程において、節目の行事は大切です。このため、義務教育学校においても、6年生終了時には卒業式に相当する行事を、また、7年生についても入学式に相当する行事を実施します。

なお、具体的な方法については、学校において決定します。

④ 制服や体操服は、新しく買わなければならないの？

- ・在校生については、現在の制服、体操服を使用できるようにします。
- ・新たな制服や体操服を検討する際も、児童生徒や保護者の皆さまからご意見を頂きながら、検討を進めます。

⑤ 志木第二中学校区では、3校のうち、1校は解体・売却するの？

- ・校舎の解体・売却はしません。
- ・志木市の小中一貫教育の目的は「教育の質の向上」です。
※ コストカット・合理化が目的ではありません。

市ホームページでは、このほかにもいただいた様々なご質問や、そのほか、小中一貫教育に関する情報を公開しています。引き続き、丁寧に情報発信をしていきます。

